

令和元年 11 月 1 日
仙台管区気象台

東北地方の 10 月の月降水量は最も多くなりました

東北地方の月降水量は、10 月としては 1946 年以降の多い方からの 1 位を更新しました。

台風第 19 号の大雨などにより、東北地方にある 17 地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値を平均した 10 月の月降水量は、平年の約 3 倍 (293%) となり、1946 年の統計開始以降の多い方からの 1 位を更新しました (これまでの 1 位は 1991 年の 222%)。

地点別の月降水量は、仙台で 644.5mm、宮古で 675.0mm となり、過去最多を記録したほか、17 地点中 7 地点で 10 月として多いほうからの 1 位を記録しました。

日降水量は、台風第 19 号の大雨により、12 日に福島で 233.5mm、白河で 368.5mm となり、過去最多を記録したほか、17 地点中 2 地点で 10 月として多い方からの 1 位を記録しました。

また、東北地方の月平均気温は、平年を 1.8℃上回り、10 月としては 1946 年以降の高い方からの 1 位を更新しました (これまでの 1 位は 1998 年の +1.7℃)。

詳しくは、下記 URL より、「2019 年 10 月の東北地方の天候」をご覧ください。

仙台管区気象台ホームページ 「2019 年 10 月の東北地方の天候」

https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/19/20191101_10TukiGaikyou.pdf

問合せ先：仙台管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課

担当：池田・中川 電話：022-297-8177 FAX：022-291-8110

2019年10月の東北地方の天候

○東北地方の月降水量は、10月として1946年以降最も多かった。
○東北地方の月平均気温は、10月として1946年以降最も高かった。

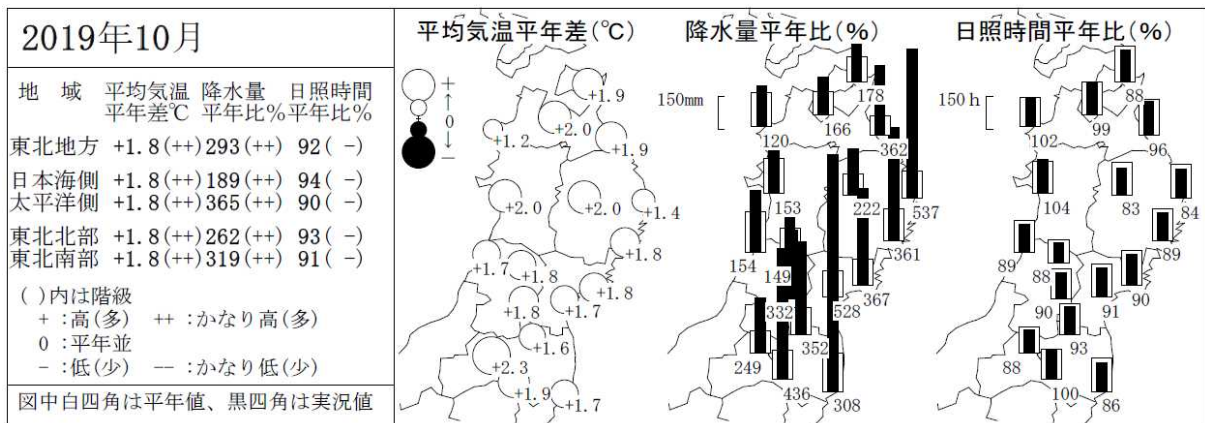
概況

この期間、天気は数日の周期で変わり、低気圧や前線、台風の影響で大雨となる日がたびたびあった。特に台風第19号によって記録的な大雨となったことなどにより、東北地方の月降水量平年比は293%となり、10月として1946年の地域平均の統計開始以降の多い方からの1位を記録した（これまでの記録は1991年の222%）。月降水量は、仙台、宮古では年間を通して多い方からの1位^{*1}を記録し、八戸、大船渡、石巻、山形、福島、白河、小名浜では10月として多い方からの1位^{*1}を記録した。12日の日降水量は、福島で233.5mm、白河で368.5mmとなり年間を通して多い方からの1位^{*1}を記録し、山形で147.5mm、仙台で303.5mmとなり、10月として多い方からの1位^{*1}を記録した。

台風第19号が関東地方から福島県を通過した影響で、11日から13日までの降水量の合計は、太平洋側の広い範囲で200mm以上となり、宮城県丸森町筆甫（ヒッポ）で607.5mmなど、多い所では10月1か月分の平年値の3～4倍の降水量を観測した。この大雨により、福島県、宮城県、岩手県では大雨特別警報を発表した。25日から26日にかけては低気圧や台風第21号の影響により太平洋側を中心に大雨となった。

日本の東で高気圧が強く、暖かい空気に覆われる日が多かったため、東北地方の月平均気温平年差は+1.8℃で、10月として1946年以降の高い方からの1位を記録した（これまでの1位は、1998年の+1.7℃）。月平均気温は、青森、むつ、八戸、秋田、盛岡、仙台、石巻、白河で10月として高い方からの1位^{*1}を記録した。

月平均気温はかなり高い。月降水量はかなり多い。月間日照時間は少ない。



平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比の分布

降水量、日照時間平年比分布図の凡例について

降水量、日照時間平年比分布図の各地点の白四角と黒四角はそれぞれ平年値と実況値です。各分布図の左上のスケール（高さ）は、降水量（mm）、日照時間（h）を表します。各地点の数字は平年比（%）です。

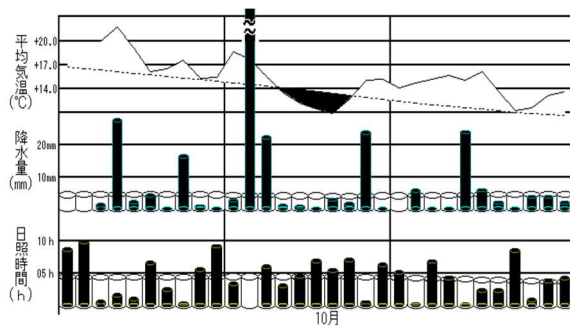
注意事項

気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています（速報値）。
細分地域を東北日本海側は青森県津軽・秋田県・山形県・福島県会津、東北太平洋側は青森県下北・三八上北・岩手県・宮城県・福島県中通り・浜通り、東北北部は青森県・秋田県・岩手県、東北南部は宮城県・山形県・福島県としています。

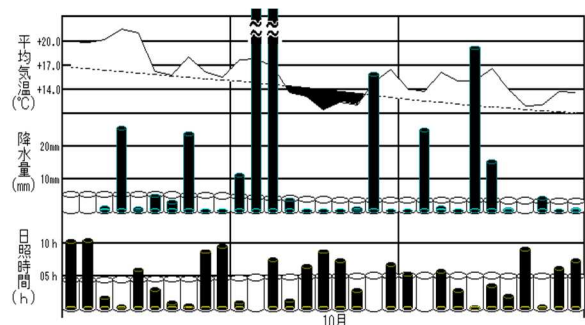
気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めています。また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には「かなり高い（多い）」「かなり低い（少ない）」と表現します。

（※1：統計開始以降の順位を示す）

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台気象防災部 地球環境・海洋課（電話：022-297-8177）



東北日本海側



東北太平洋側

平均気温、降水量、日照時間の経過

左は東北日本海側、右は東北太平洋側の気象官署の観測値と平年値の地域平均。気温は折れ線が観測値、実線が平年値で、陰影は平年値より低いことを示す。降水量と日照時間は黒円柱が観測値、白円柱が平年値。

2019年10月の極値・順位の更新 (順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。)

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃ (西暦年)	開始年	平年値 ℃
1	青森	15.1	+2.0	14.9 (1998)	1882	13.1
	むつ	14.3	+1.9	13.9 (2012)	1935	12.4
	八戸	14.9	+1.9	14.5 (1998)	1936	13.0
	秋田	16.0	+2.0	15.9 (1998)	1882	14.0
	盛岡	14.1	+2.0	13.9 (2013)	1923	12.1
	仙台	16.9	+1.7	16.8 (1998)	1926	15.2
	石巻	16.3	+1.8	16.2 (1998)	1887	14.5
	白河	15.4	+1.9	15.3 (2013)	1940	13.5
2	大船渡	15.8	+1.8	16.0 (1998)	1963	14.0
	新庄	14.5 =	+1.8	14.8 (2013)	1957	12.7
	若松	15.8	+2.3	16.0 (2013)	1953	13.5
	小名浜	18.1 =	+1.7	18.5 (1994)	1910	16.4
3	宮古	14.7 =	+1.4	14.9 (1998)	1883	13.3
	酒田	16.8	+1.7	17.1 (2013)	1937	15.1
	山形	15.4	+1.8	15.6 (1998)	1889	13.6

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	大船渡	508.0	361	370.5 (1991)	1963	140.7
	八戸	315.5	362	289.7 (1943)	1936	87.2
	宮古	675.0	537	493.6 (1899)	1883	125.7
	山形	307.0	332	280.5 (1991)	1889	92.4
	仙台	644.5	528	347.0 (1991)	1926	122.0
	石巻	437.5	367	394.5 (1991)	1887	119.2
	福島	419.0	352	407.5 (2004)	1889	119.1
	白河	591.5	436	526.0 (2004)	1940	135.6
	小名浜	536.0	308	453.5 (1991)	1910	173.8

月平均気温低い方から、月降水量少ない方から、月間日照時間多い方から、月間日照時間少ない方からの順位更新の3位以内はありません。

- (注) ・順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。
 ・値の横に「]」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。
 ・平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

2019年10月の月気候表

地点名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青森	15.1	(+2.0)	++	172.0	(166)	++	13	148.9	(99)	○
深浦	14.7	(+1.2)	++	186.5	(120)	+	16	133.2	(102)	○
むつ	14.3	(+1.9)	++	195.5	(178)	++	13	140.2	(88)	—
八戸	14.9	(+1.9)	++	315.5	(362)	++	11	155.1	(96)	○
秋田	16.0	(+2.0)	++	240.0	(153)	++	16	151.8	(104)	○
盛岡	14.1	(+2.0)	++	206.0	(222)	++	10	120.6	(83)	—
大船渡	15.8	(+1.8)	++	508.0	(361)	++	13	124.8	(89)	—
宮古	14.7	(+1.4)	++	675.0	(537)	++	14	129.9	(84)	—
仙台	16.9	(+1.7)	++	644.5	(528)	++	14	135.2	(91)	—
石巻	16.3	(+1.8)	++	437.5	(367)	++	12	139.4	(90)	—
山形	15.4	(+1.8)	++	307.0	(332)	++	12	118.4	(90)	—
新庄	14.5	(+1.8)	++	233.0	(149)	++	15	92.3	(88)	—
酒田	16.8	(+1.7)	++	278.0	(154)	++	17	126.0	(89)	—
福島	16.7	(+1.6)	++	419.0	(352)	++	14	126.4	(93)	—
若松	15.8	(+2.3)	++	249.0	(249)	++	14	107.5	(88)	—
白河	15.4	(+1.9)	++	591.5	(436)	++	15	138.5	(100)	○
小名浜	18.1	(+1.7)	++	536.0	(308)	++	14	131.5	(86)	—

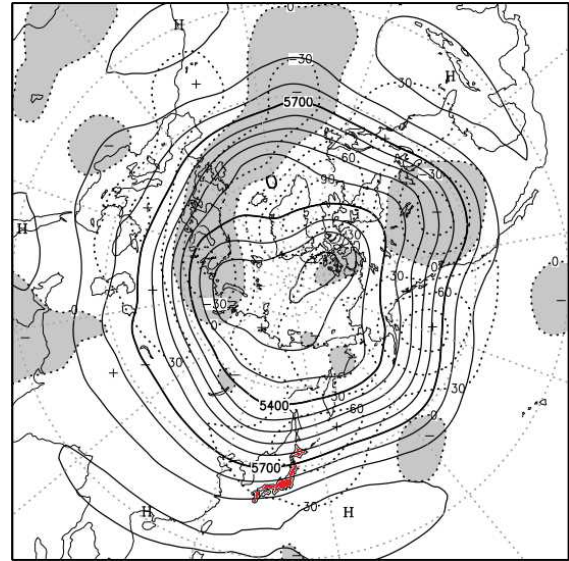
- (注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。
 2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。
 ++:高い(多い) ○:平年並 -:低い(少ない)
 各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。
 また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に*を付加した。この場合には
 ++*:かなり高い(多い) ○*:かなり低い(少ない)
 と表現できる。
 3. 値の横に「)」や「]」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。
 なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

循環場の特徴

500hPa 高度は、日本付近では、北日本を中心に日本の東海上にかけて高度が高く、北・東・西日本では暖かい空気に覆われやすかった。

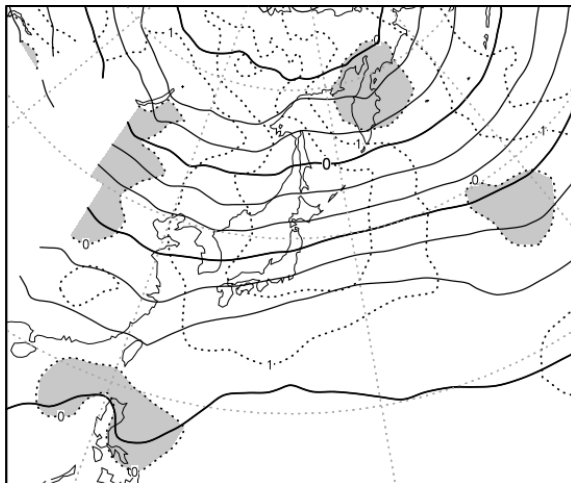
850hPa 気温は、日本付近は平年より高かった。

海面気圧は、カムチャツカの東から千島近海、北日本にかけて平年より気圧が高く、北日本では比較的高気圧に覆われやすかった。東日本から西日本にかけては、台風や低気圧の影響を受け、平年より気圧が低くなった。



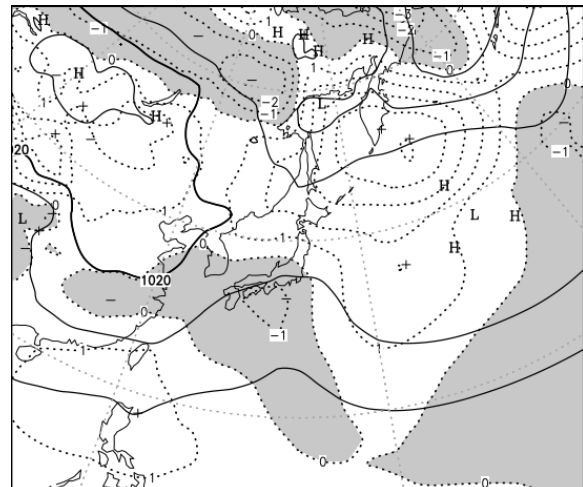
2019年10月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。



2019年10月の平均850hPa気温

実線は気温(°C)、間隔3°C。点線は偏差(°C)、間隔1°C。陰影は負偏差で寒気に対応し、白抜きは正偏差で暖気に対応する。



2019年10月の平均海面気圧

実線は海面気圧(hPa)、間隔4hPa。点線は偏差(hPa)、間隔1hPa。陰影は負偏差、白抜きは正偏差。